

水稲の生育状況と当面の対策

第 1 報
千葉県農林水産部
平成 26 年 6 月 3 日

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>

**生育は早く、「ふさおとめ」の幼穂形成期は6月15日頃から！
茎数はかなり多い！中干しを速やかに始めましょう！**

[生育概況]

○生育の進みが早く、茎数はかなり多い！（「表 1」を参照）

今年は、移植時期から続く高温多照傾向のため、生育の進みが早く、茎数がかなり多くなっています。草丈はやや高く、葉色は平年並からやや濃い傾向で、旺盛な生育です。

いずれの品種とも中干し開始目標茎数に達しています。

表1 品種別の生育状況（6月2日現在）

品種	植付時期	平年比※			
		葉令の進み	草丈	茎数	葉色
ふさおとめ	4月20日頃	やや早	やや高	多	並
ふさこがね	4月20日頃	やや早	やや高	多	並～やや濃
コシヒカリ	4月20日頃	早	高	多	並～やや濃
	5月1日頃	やや早	並～やや高	多	やや濃
ふさのもち	4月20日頃	早	やや高	多	並
	5月10日頃	早	並～やや高	多	並～やや濃

※ 過去5か年（2009～2013年）の平均値との比較

ただし「ふさのもち」については2010～2013年の平均値との比較

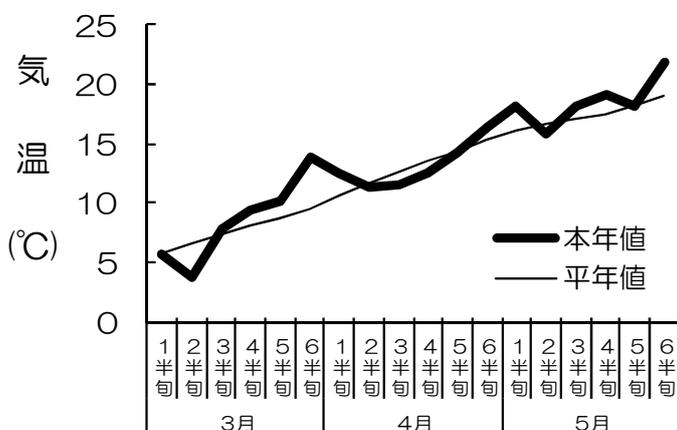


図1 平均気温の推移（佐倉市）

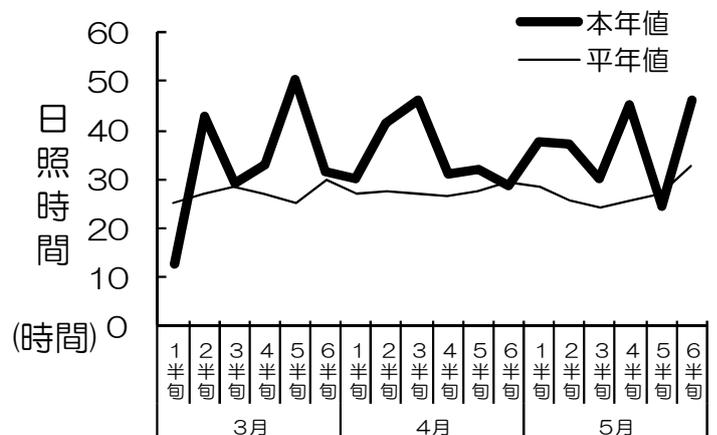


図2 日照時間の推移（佐倉市）

[これからの管理のポイント]

○ 茎数過多に要注意、中干しを速やかに始めましょう！

中干し開始目標茎数は、移植時期が遅かった地域を除き、既に確保されています。葉色は平年並からやや濃い傾向を示していることから、分けつがさらに増えることが予想されます。

茎数過多は倒伏や玄米品質低下の原因となるので、「表2」の中干し開始目標茎数を確認し、中干しを速やかに開始し、過剰分けつの発生を抑えましょう。

排水しにくいほ場では、中干し開始数日後に溝切りを行うと効果的です。

※中干しのやり方と水管理

- ①中干しは強すぎないように、土が湿って足跡が残る程度
- ②中干しから出穂3週間前までは間断かんがい
- ③出穂前3週間から出穂後2週間までは湛水管理（この期間は田面が露出しないように管理）
- ④出穂2週間後から出穂25日後までは間断かんがい

表2 品種別の中干し開始時期の目安

品種	植付時期	中干し開始目標茎数		
		砂質	壤質	粘質
ふさおとめ	4月20日	480本/m ² (27本/株)	480本/m ² (27本/株)	440本/m ² (24本/株)
ふさこがね	4月20日	—	360本/m ² (20本/株)	—
コシヒカリ	4月20日	320本/m ²	310本/m ²	300本/m ²
	5月1日	(18本/株)	(17本/株)	(16本/株)

※ () 内は60株/坪植えの時の1株当たり茎数の目安

※ 極端な疎植の場合はこの目標茎数に達しないことがある

○ 今後の高温に注意！

気象庁が5月29日に発表した1か月予報によると平年に比べて気温が高く、日照時間は多く、降水量は平年並みか少ない見込みです。この場合、稲の生育はさらに進むことが予想されます。速やかな中干しと適期に穂肥を行いましょう。

【農作業中はこまめに水分を取り、熱中症を防ぎましょう！】

○ 「ふさおとめ」は幼穂を観察し、穂肥に備えましょう！

4月20日植えの「ふさおとめ」の生育は平年よりやや早く、6月15日頃から幼穂形成期（幼穂長1mm）となる見込みです（表3）。「ふさおとめ」は穂肥が遅れると玄米中のタンパク含量が増加し、食味の低下を招くので、穂肥は幼穂形成期から1週間以内（幼穂長1～10mm）に施用しましょう。幼穂形成期の生育量の目安は表4のとおりです。

表3 品種別の幼穂形成期の予測

品種	植付時期	幼穂形成期予測（月日）			
		県北	九十九里	内湾	県南
ふさおとめ	4月20日	6月18日～	6月16日～	6月15日～	6月15日～

※ 幼穂形成期予測システム（H24 千葉県試験研究成果普及情報）を基に予測

※ 各地域内で最も早い予測日を記載

表4 幼穂形成期の好適な生育量

品種	茎数（本/m ² ）			葉色 （カラスケール値）
	砂質	壤質	粘質	
ふさおとめ	570～620 (31～34本)		520～570 (29～31本)	4

※ （ ）内は60株/坪植えの時の1株当たり茎数の目安

○茎数不足でも窒素の中間追肥は行わない！

茎数確保が遅れていても葉色は濃くなってきています。この時期の窒素の中間追肥は倒伏を招き、食味・品質・収量や収穫時の作業性に悪影響を及ぼしますので、窒素の中間追肥は行わないようにしましょう。

○置き苗を処理しましょう！

ほ場の隅に置いてある補植用苗は、いもち病の発生源になります。速やかに廃棄しましょう。

○生産履歴を必ず記帳しましょう！

流通業界や消費者からは、いつどのような肥料や農薬を使ったのか等の栽培履歴が分かる米が求められています。信頼される米づくりのため、必ず生産履歴を記帳しましょう。



図3 ふさおとめ（4月21日植え）

6月3日（千葉市緑区刈田子）の様子

例年より分けつが多く、茎数は平年値の1.5倍以上で既に中干しを開始している。

適正な施肥で健全な稲の栽培に取り組みましょう

～加里を補い、放射性セシウムの吸収抑制を図りましょう～

窒素、リン酸、加里は稲の生育に重要な肥料成分です。

しかし、近年、加里の土壌中成分量が不足している例が見受けられます。加里を補い、健全な稲の育成に努めましょう。

中間追肥での加里施用は、米の放射性セシウム吸収抑制対策にも効果的です。

<ポイント> 加里肥料を適正量まで施用しましょう！

県の加里の施用基準量は、基肥 6～8kg/10a、穂肥 1～3kg/10a です。

加里を施用することによって、放射性セシウムの稲への吸収を抑制することができます。なお、倒伏を防ぐため、窒素は適正量とします。

特に土壌中の加里含量が少ないことが予想される以下の水田では、穂肥より効果の高い中間追肥で加里施用を行いましょう。

- ①倒伏を回避するため、基肥の施用量を控えた水田
- ②一発肥料のみの施用で穂肥分の加里が不足している水田
- ③耕畜連携等により水田から稲わらを持ち出し、堆肥を入れなかった水田
- ④土壌に含まれる加里が少ないと思われる（砂質）水田

加里肥料の施用量

稲は生育期間を通して、10kg/10a程度の加里を必要としています。不足分の加里成分を適量中間追肥してください。

例1) 一発肥料のみ施用している場合

穂肥分の加里成分(3kg/10a)を補います。

成分から換算すると ・塩化加里 : 5kg/10a 又は
・ケイ酸加里 : 15kg/10a となります。

例2) 水田から稲わらを持ち出している場合

稲わら分の加里成分(9kg/10a)を補います。

成分から換算すると ・塩化加里 : 15kg/10a 又は
・ケイ酸加里 : 45kg/10a となります。

※塩化加里の方が即効性があります。

※稲の倒伏を防ぐため、窒素成分を含まない加里肥料を施用します。